

## アクセスマップ



駅周辺拡大図



## 登山道口まで

【徒歩】近鉄新田辺駅、JR 京田辺駅/大住駅より約 40 分

## ご注意

- ・ 山内でのたき火やバーベキューは禁止です。
- ・ 山内には、自転車・バイクは乗り入れ禁止です。
- ・ 動植物は大切に、マムシ・ハチなどに注意してください。
- ・ 山内の歩行には十分注意してください。

## お問い合わせ

【京田辺市観光案内所】  
 京田辺市田辺中央4丁目3-3 CIKビル1階  
 tel: 0774-68-2801 fax: 0774-68-2817

【京田辺市産業振興課】  
 京田辺市田辺 80  
 tel: 0774-64-1319 fax: 0774-64-1359

## 発行

2026 年 3 月  
 公益社団法人 薪甘南備山保存会  
 京田辺市薪東沢 1 番地

## 協力

京田辺市  
 同志社女子大学 学芸学部 メディア創造学科

## 神の宿る山 かんなびやま 甘南備山

標高 221m (神南備神社) の雄山、201.6m (三角点) の雌山からなる、京田辺市唯一の独立峰です。南北に連なる生駒山脈の支峰に数えられ、自生する広葉樹が多くを占めています。古くから神の宿る山として信仰の対象となり、人々の生活を支える里山の役割を果たしてきました。「かんなび」と呼ばれるようになったのは弥生時代ともいわれ、五穀豊穡を願い、雨を乞う祈禱の場所でした。

## 物語

### 雨乞い

薪(たきぎ)の村では日照りが長く続き、田植えができずにいた。このままでは米を作ることができなくなってしまふ。そこで、雨乞いをするため、村人総出で井手川(手原川)へ向かった。薪の村には山の亀に酒を飲ませて雨乞いをする習慣があったのだ。水のなくなった川の掃除をしながら、さらに亀を探して雨



乞いの井戸へと進んだ。亀が見つかったら、井戸の水で洗い、酒を飲ませてやった。そして、村人たちは雨が降るようにお祈りをした。次の日、夜が明けると大粒の雨が降ってきた。「助かった!」と村人たちは喜び合った。願いが叶ったお礼に、お盆には盆踊りをしたという。

### 『今昔物語』より 甘奈比寺の聖人

綴喜郡(つづきぐん)の飯の岳(飯岡)の西北に甘奈比寺という山寺(現在の甘南備山上に建立された)があり、一人の僧が住んでいた。この僧は日頃からこの寺を出て、都の大寺に行きたいと思っていた。ついに行こうと決心した夜の夢に、この寺の薬師如来が老僧となって現れ、「なんじの前世は、この寺の



土中に住んでいたミミズだ。法華経を毎日聞いた功德によって人間に生まれ変わったのだ。お前は、この寺に深い縁のある身であるから、他へ行ってはならない。ここで修行し、この寺を守っていかねばならない。」と諭され、生涯この寺に留まったという。(巻 14 第 25)

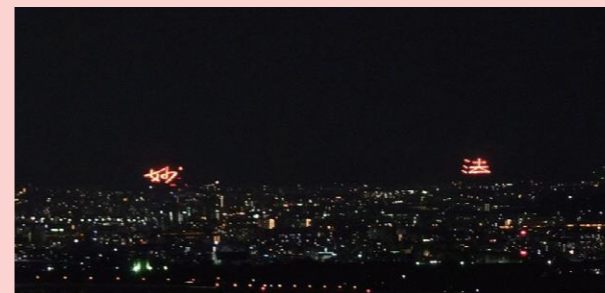
## 環境にやさしいバイオトイレ



安心と快適さの確保のため、芝生広場に設置されました。微生物による排泄物の分解処理を利用し、水などを流さないトイレです。

## イベント

### 五山の送り火を観る会



毎年 8 月 16 日に開催しています。展望台・三角点から妙法、船形、左大文字を見ることができます。

### 新春初登り



毎年 1 月 3 日に行われます。JR 京田辺駅または薪小学校に集合し、山頂を目指して約 1 時間の道のりを歩きます。昭和 34 年から続く伝統的な行事です。

### お問い合わせ

【京田辺市文化協会】  
 0774-29-9118

## 取り組み

### ボランティア活動の受け入れ



京セラ(株)の皆さんによるスギやヒノキの間伐作業、間伐材を利用したベンチづくり、市内の民間団体の方々による清掃活動などが定期的に行われています。

### 生活環境保全林整備事業



昭和 62 年から各種の森や管理道・遊歩道が、平成 17 年からは治山治水のため木製ダムの整備がされました。写真は竜王の森の防火用ダムです。

## かんなびやま 甘南備山 登山マップ



## Kannabi-yama Hiking Map



展望台からの眺望



1 芝生広場  
Lawn Field

春は桜、秋は紅葉を楽しめます。お弁当を食べたり、お花見をするのにぴったりです。広場内には、生活環境保全林整備事業が完成した記念として石碑が建てられています。



3 神南備神社  
Kannabi Shrine

村人が豊作を祈った場所として、天照大神（あまてらすおおみかみ）などが祀られています。境内からは、京田辺市の中心市街を見渡せます。



4 雨乞いの井戸  
Well for Rain-making

日照りによる農作物への被害が危惧されたときには、この井戸まで続く川の掃除をして雨乞いをする習慣がありました。現在は安全上ふたをしています。

物語（裏面）



5 呼吸根  
Respiratory Root

スギ科の落羽松（ラクウショウ）の木の根が、呼吸をするために空中に伸び出たものです。酸素が乏しい泥中などに生育する植物にみられ、気根とも呼ばれます。



6 貯水池  
Reservoir

甘南備山の水の源である竜王の森にあります。貯水池周辺はトイレもあり、休息の広場になっています。水上デッキがあり、秋には紅葉に囲まれながら、池の上からの眺めを楽しめます。



2 らせんのビューテラス/白石  
Spiral Observatory / Shiraiishi

建築家・隈研吾氏が設計した「らせんのビューテラス」は、甘南備山にまつわる歴史・文化に思いをはせることができるらせん状のデザインで、京都市街が一望できる開放的な展望テラスです。

また、三角点から北東約50m下方にある白石は、太陽の光の反射によって平安京建設当時の目印になったという説があり、平安京の中心線となる朱雀大路は、船岡山と甘南備山を結ぶ線上に決められたと伝えられています。



7 展望台  
Observatory

北は京都市から、南は同志社大学まで京都盆地を一望できます。晴れた日には比叡山、愛宕山（あたごやま）、京都タワーが見えます。



8 吉やんの滝  
Waterfall of Yoshiyan

竜王ヶ谷川にある中でもっとも大きな滝で、高さが5mあります。名前の由来はまだ分かっていません。雨乞いの小径沿いにはこの他に二の滝、三の滝があります。



木製ダム  
Wooden Dam

平成19年度から6基の治山ダムが京都府により整備されました。木製ダムとしては、旧登山道川・ゴミ谷川・イズマン谷川に各1基、南麓の谷川に2基整備されました。



甘南備寺  
Kannabi Temple

奈良時代に行基によって開創されたといわれています。古井戸付近（元甘南備寺跡：★）に建てられていましたが、山上では不便であったため江戸時代に現在の一休寺付近に移築されました。『今昔物語』には、この寺にまつわる物語が残されています。

物語（裏面）  
アクセスマップ

甘南備山へは、公共交通機関を利用し、徒歩でお越しください。



タマミズキ（玉水木）

Tamamizuki



モチノキ科の落葉高木です。甘南備山はタマミズキを見ることのできる、京都でも数少ない場所のひとつです。冬には木全体に真っ赤な実がなります。地図では、タマミズキの位置（A-3より北）を●で表しています。また、管理道路沿い及びナナカマドの小径などにも点在しています。

野鳥が好む実のなる樹木の森

ウメやサンシュユなど多種多様な花が咲く

昆虫採集、木の实拾いのできる落葉樹の森